

## 産業廃棄物処理業景況動向調査結果について 〔2020年1～3月期〕

公益社団法人全国産業資源循環連合会

〔調査結果の概要〕

景況判断DI(2ページ参照)は▲33となり、過去最大の下落幅となった。見通しは▲53となり、東日本大震災後の水準まで低下する見込みとなっている。

経営上の問題点(12ページ参照)を見ると、11期連続で「従業員の不足」が1位となり、深刻な人手不足が続いている。続いて「需要の停滞」がほぼ同率で2位となった。

新型コロナウイルスの影響により景気が大幅に下押しされ、厳しい状況にある。

2020年1-3月期の景況判断を「悪化」とした企業は37%で、前回調査(2019年10-12月期23%)より14ポイント悪化した。「好転」とした企業は4%で前回調査(8%)より4ポイント悪化した。景況判断DIは▲33となり、前回調査(▲15)より18ポイント悪化した。

以下、その他業況感DIの内訳

2019年10-12月期に対して、

- ・売上高DIは-20で、31ポイント悪化
- ・処理量DIは-18で、28ポイント悪化
- ・営業利益DIは-17で、19ポイント悪化
- ・資金繰りDIは-2で、2ポイント悪化
- ・借入難易度DIは7で、1ポイント悪化
- ・設備投資DIは-2で、3ポイント改善
- ・従業員数DIは0で、同水準
- ・契約単価DIは、収集運搬が5で、1ポイント悪化

処分が8で、3ポイント悪化

- 今後の景況感DIの見通しは、景況判断DIで▲53となり、20ポイント悪化する見込みとなっている。
- 売上高の動向については、前年同期比(3ヶ月平均)で8.8%増となった。
- 処理量の動向については、前年同期比(3ヶ月平均)で18.7%減となった。
- 経常利益率については、平均値が5.30%で前回調査(5.55%)より悪化した。
- 経営上の問題点は、「従業員の不足」19.9%(前回25.5%)が11期連続で1位となった。

※DIとは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

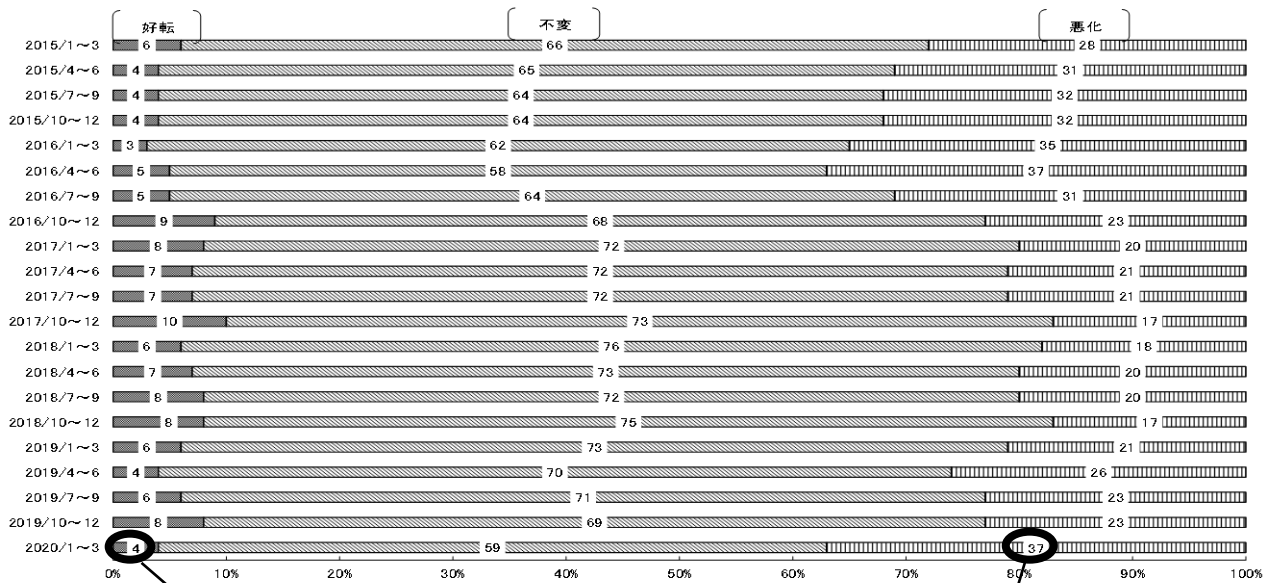
※本調査は、2009年から半期周期の調査として実施していたが、2013年からは四半期周期の調査に変更している。

# 1. 景況感 DI(「好転」・「増加」―「悪化」・「減少」の企業割合)

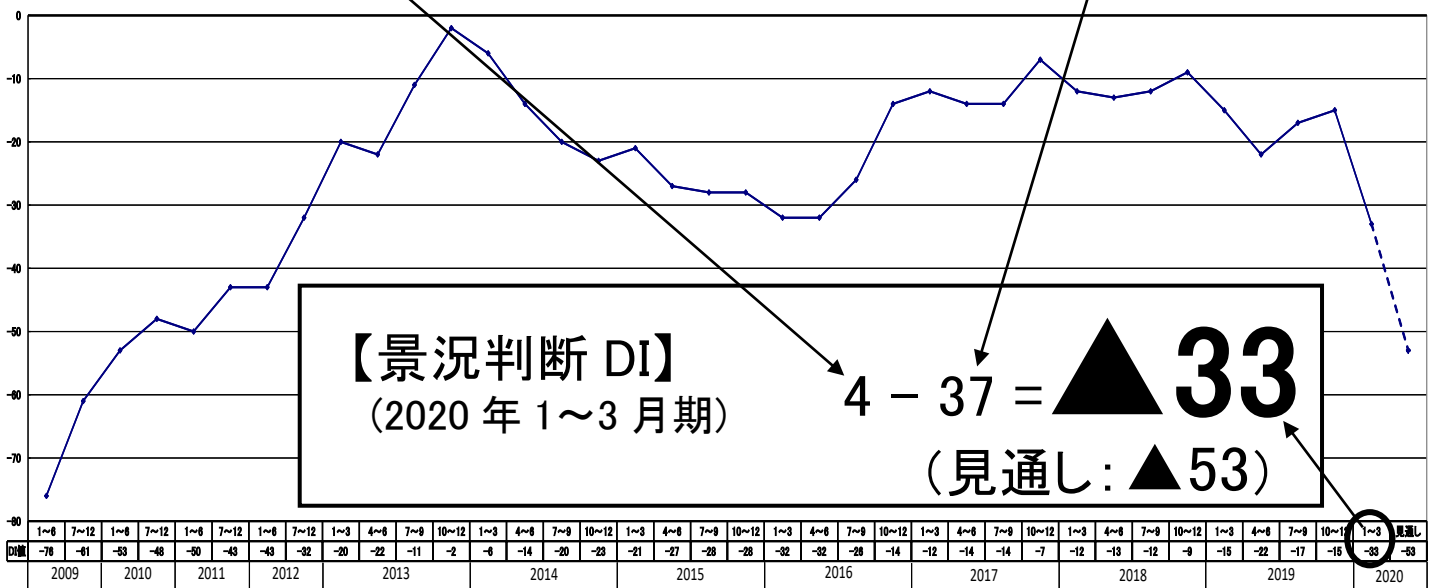
## (1) 景況判断 DI

- 景況判断 DI は▲33 となり、過去最大の下落幅となった。  
見通しは▲53 となり、東日本大震災後の水準まで低下する見込みとなっている。
- 地域別の景況判断 DI をみると、前回と比べて全ての地域が悪化した。(3 ページ参照)
- 地域別の景況判断 DI の見通しをみると、全ての地域が悪化する見込みとなっている。  
(3 ページ参照)

景況感(2015年1月-3月～2020年1月-3月)



景況判断DI(2009年1月-6月～2020年1月-3月と見通し)

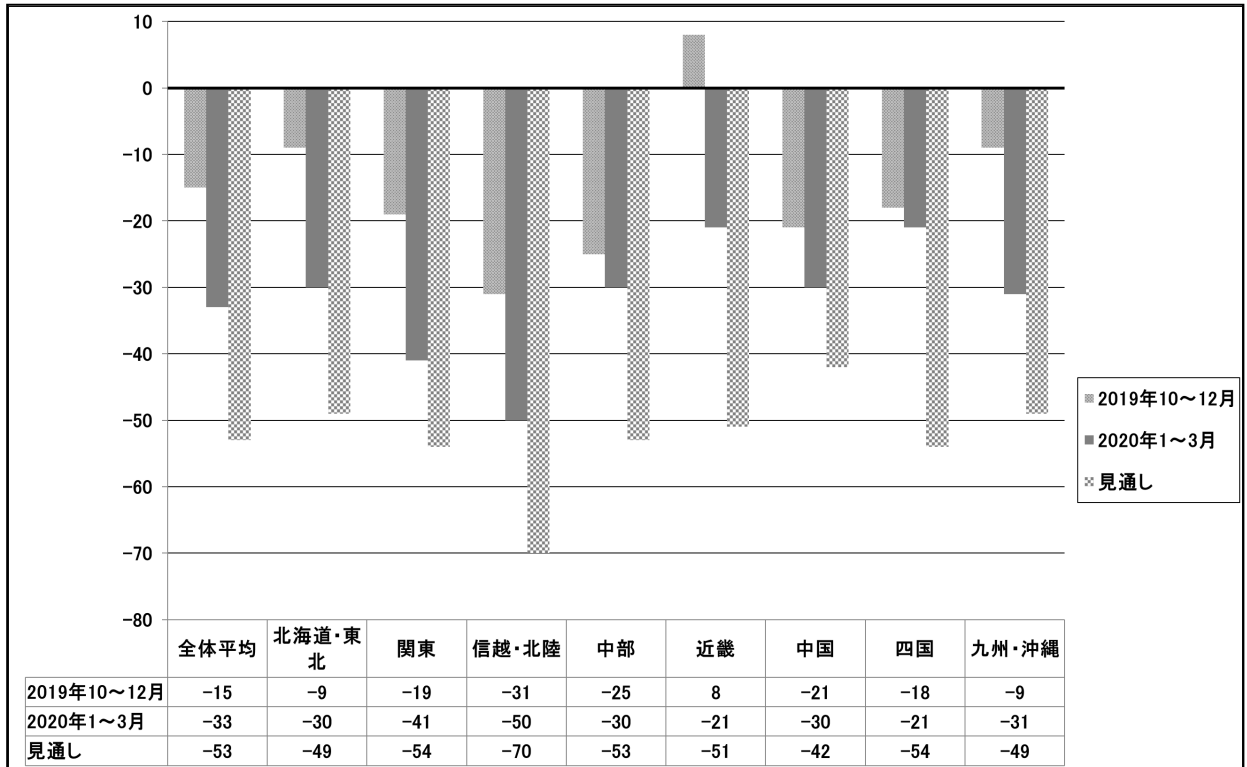
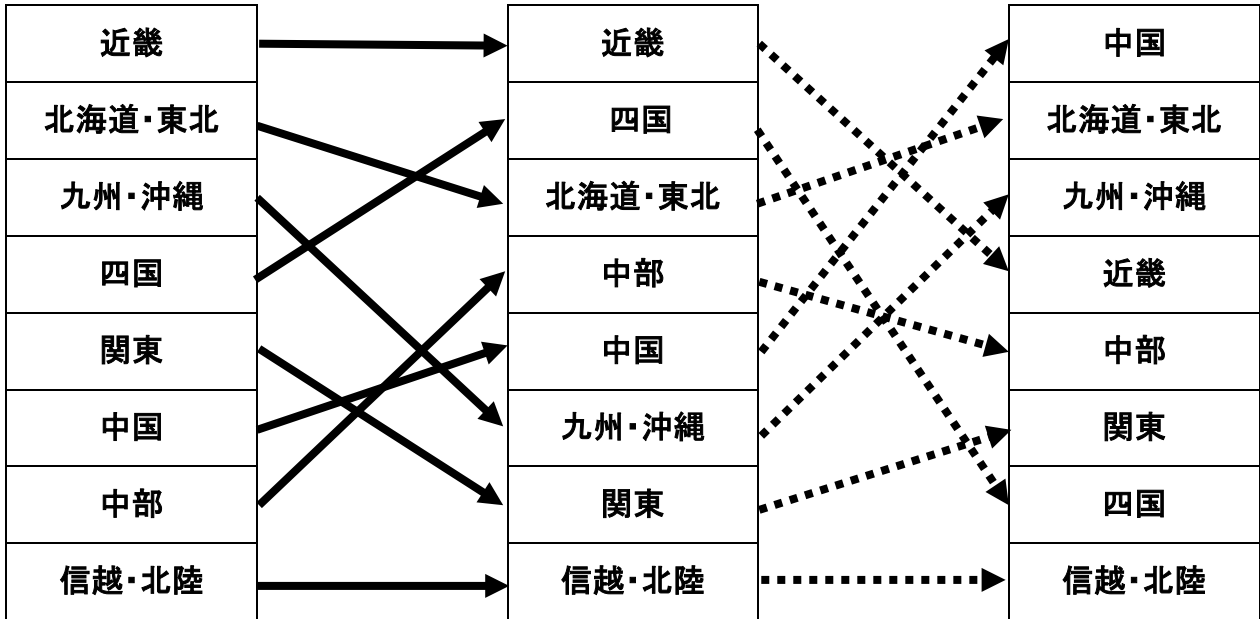


# 地域別景況判断 DI

2019年10-12月期  
(前期)

2020年1-3月期  
(今期)

2020年4-6月期  
(見通し)



(2)売上高 DI、処理量 DI、営業利益 DI、資金繰り DI、借入難易度 DI、設備投資 DI、  
従業員数 DI

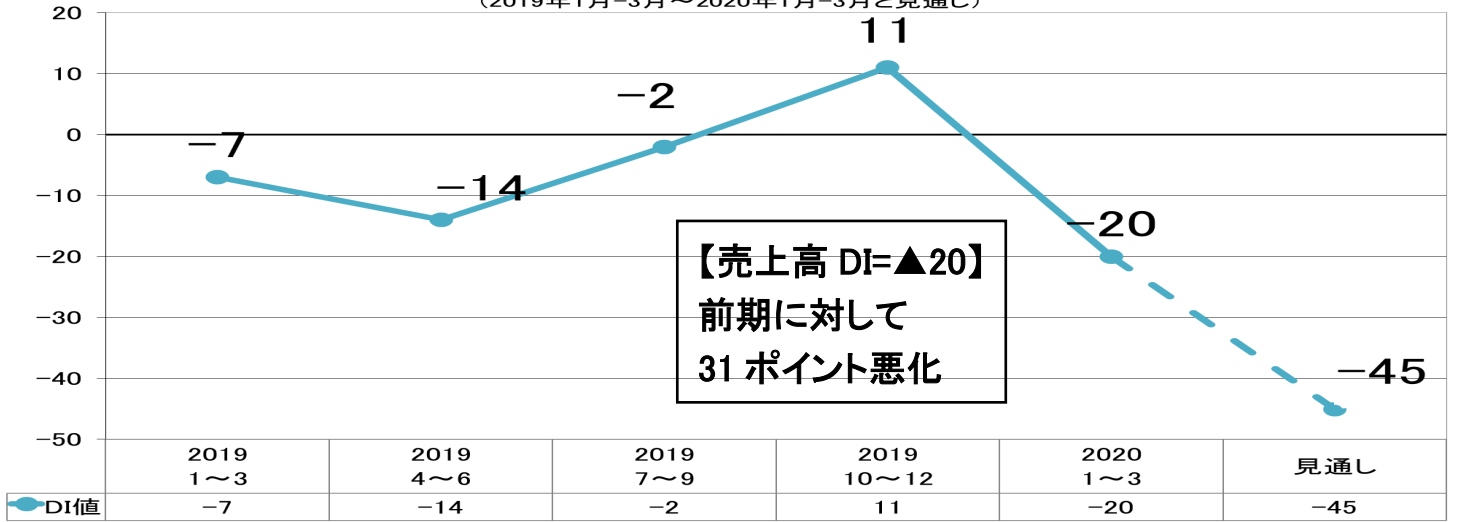
- 前回と比べて、設備投資 DI のみが改善した。
- 見通しは、全ての DI が悪化する見込みとなっている。

以下詳細(5~7 ページ参照)

- ・売上高 DI は、今回▲20 となり、前回と比べて 31 ポイント悪化した。  
見通しは▲45 となり、25 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・処理量 DI は、今回▲18 となり、前回と比べて 28 ポイント悪化した。  
見通しは▲46 となり、28 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・営業利益 DI は、今回▲17 となり、前回と比べて 19 ポイント悪化した。  
見通しは▲46 となり、29 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・資金繰り DI は、今回▲2 となり、前回と比べて 2 ポイント悪化した。  
見通しは▲15 となり、13 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・借入難易度 DI は、今回 7 となり、前回と比べて 1 ポイント悪化した。  
見通しは 2 となり、5 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・設備投資 DI は、今回▲2 となり、前回と比べて 3 ポイント改善した。  
見通しは▲12 となり、10 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・従業員数 DI は、今回 0 となり、前回と同水準であった。  
見通しは▲1 となり、1 ポイント悪化する見込みとなっている。

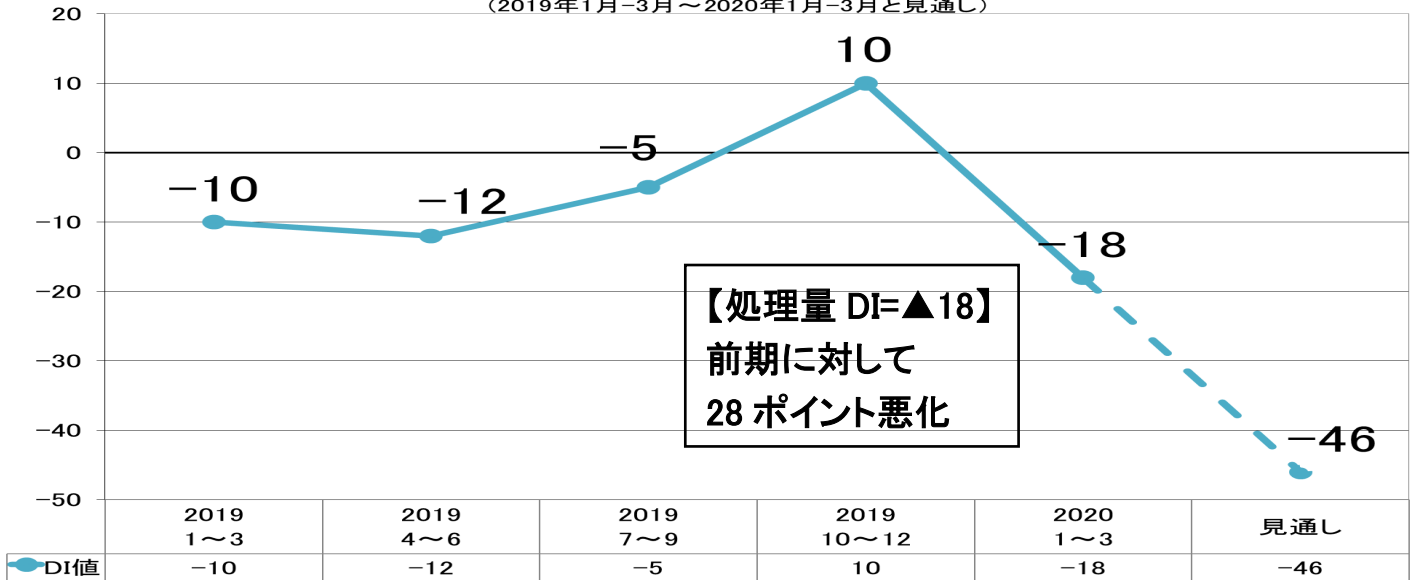
### 売上高DI

(2019年1月-3月～2020年1月-3月と見通し)



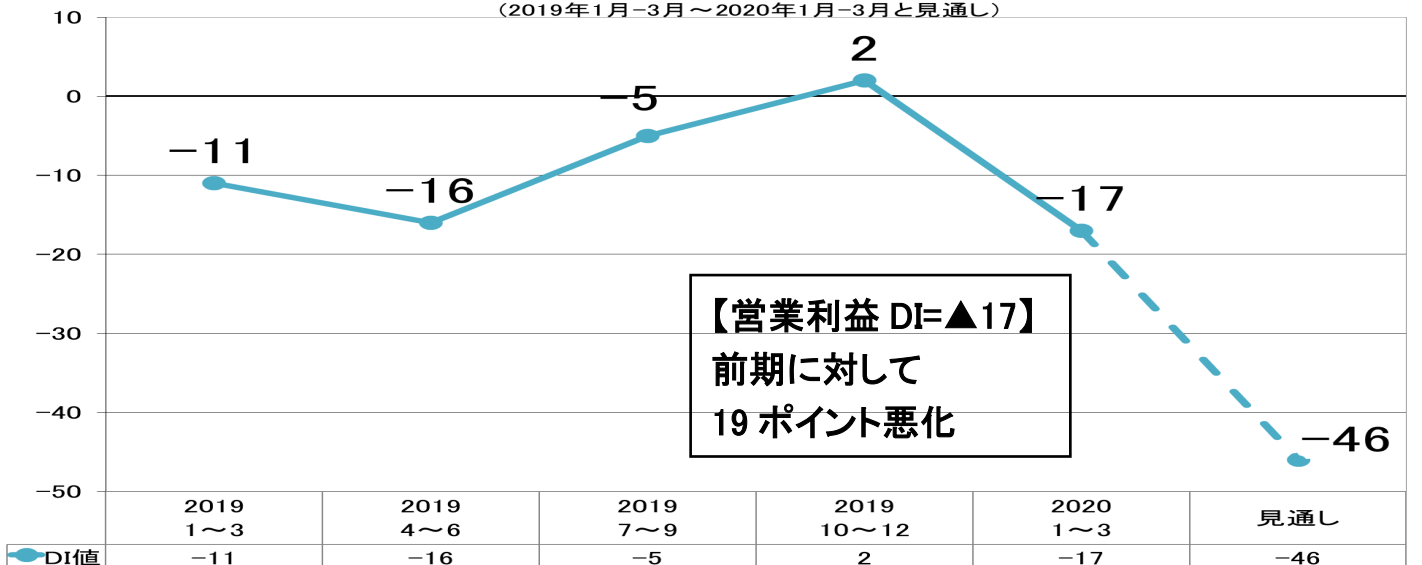
### 処理量DI

(2019年1月-3月～2020年1月-3月と見通し)



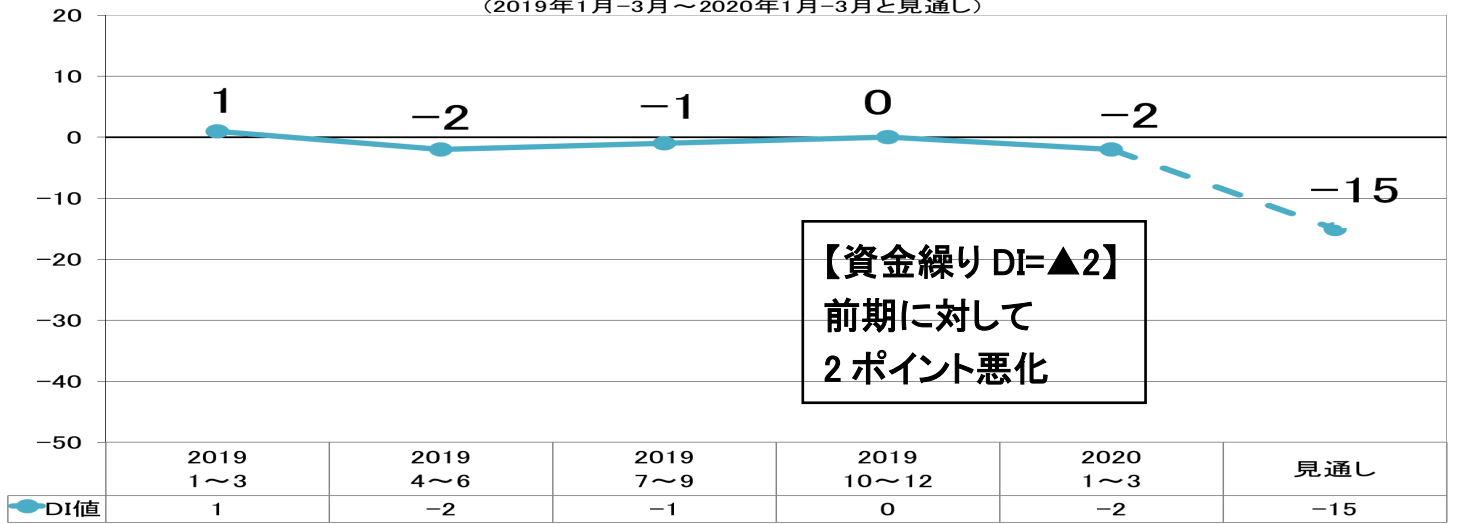
### 営業利益DI

(2019年1月-3月～2020年1月-3月と見通し)



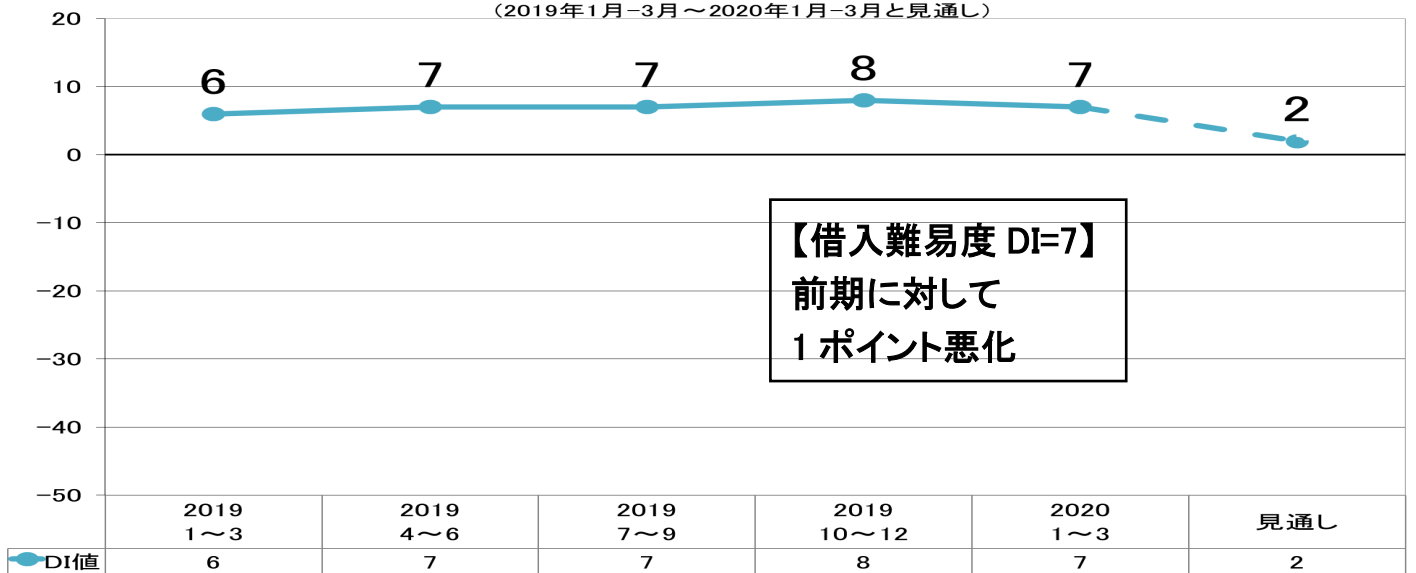
### 資金繰りDI

(2019年1月-3月～2020年1月-3月と見通し)



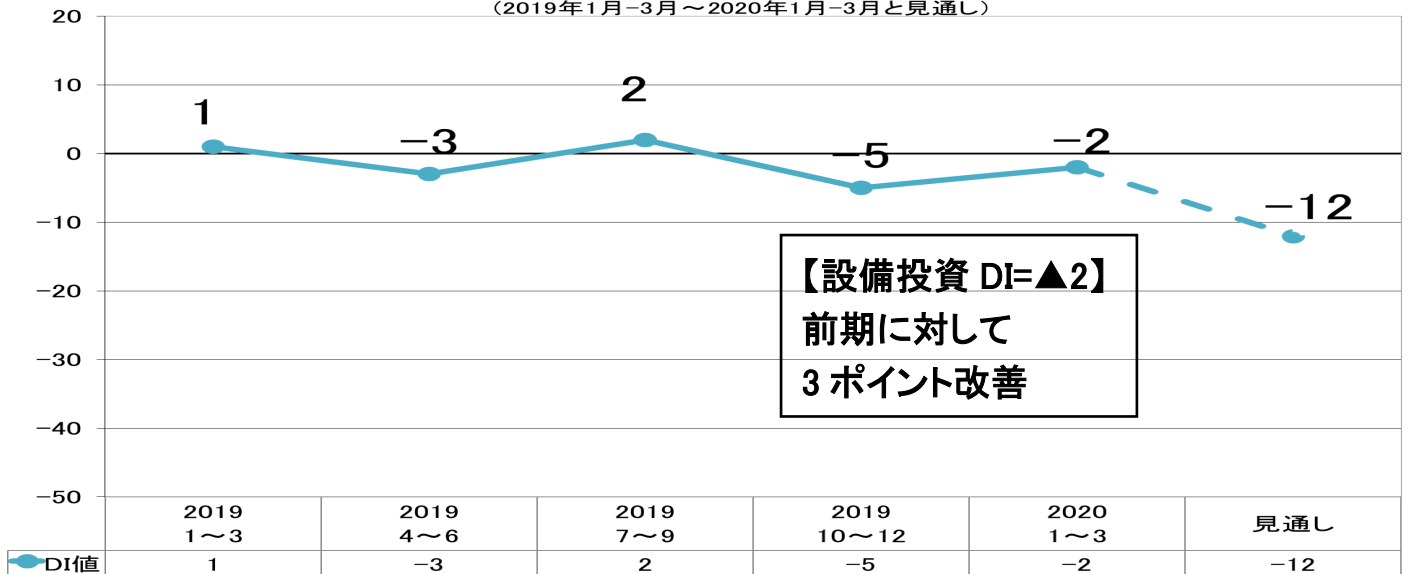
### 借入難易度DI

(2019年1月-3月～2020年1月-3月と見通し)



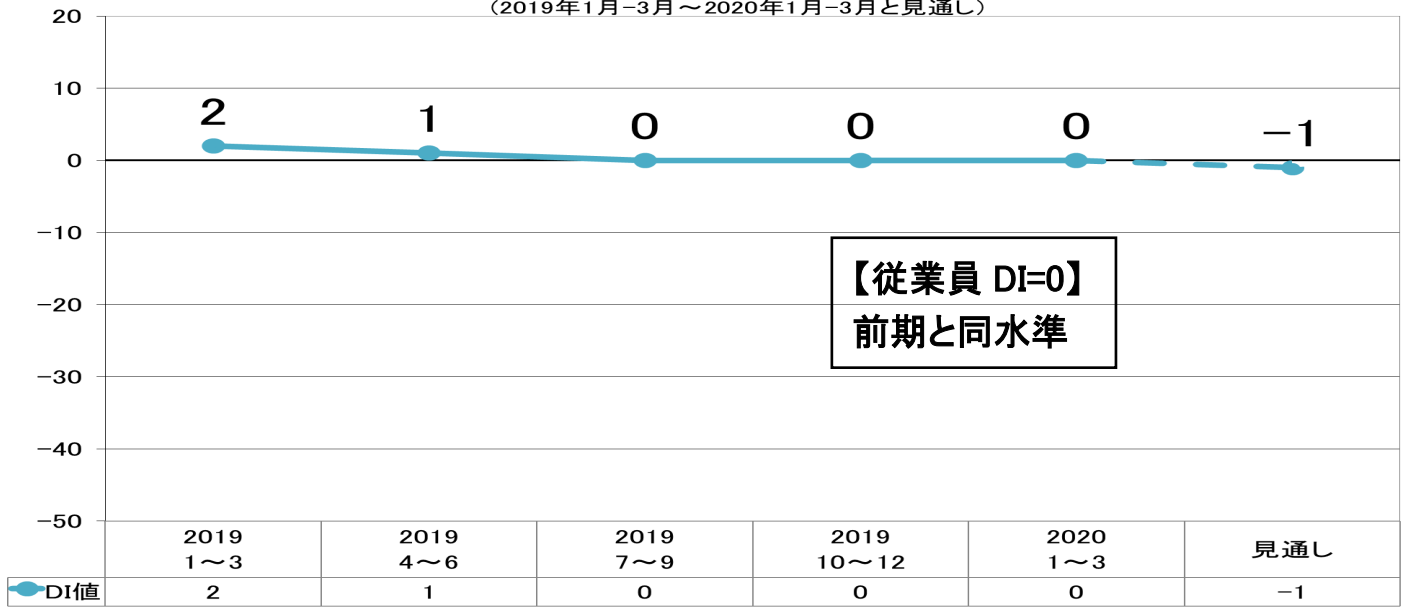
### 設備投資DI

(2019年1月-3月～2020年1月-3月と見通し)

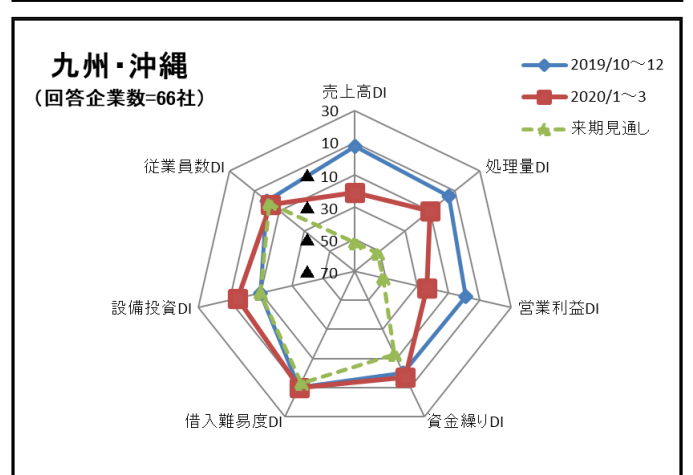
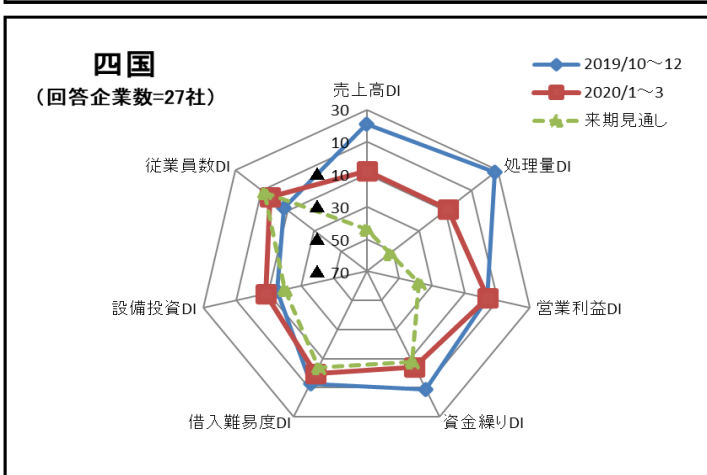
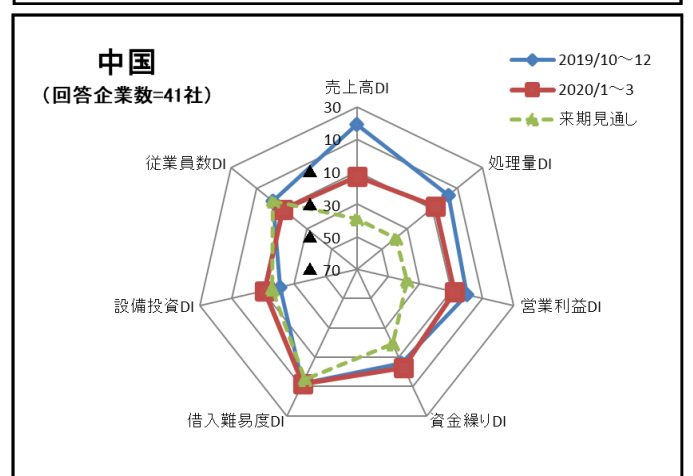
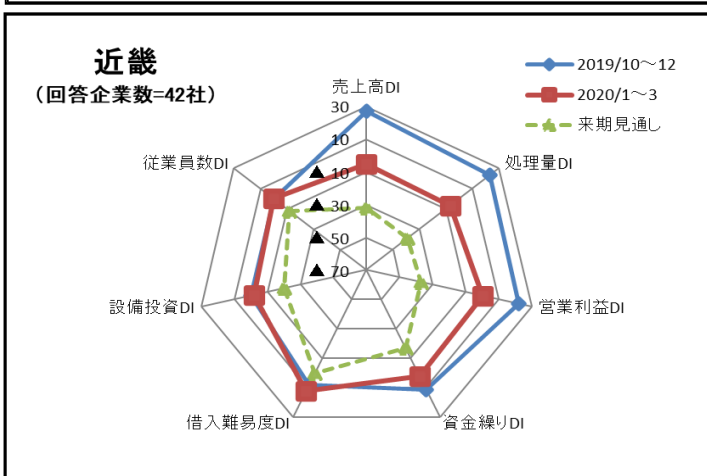
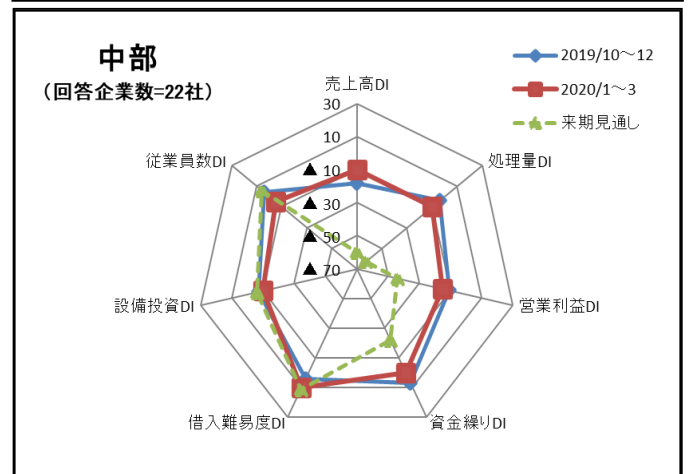
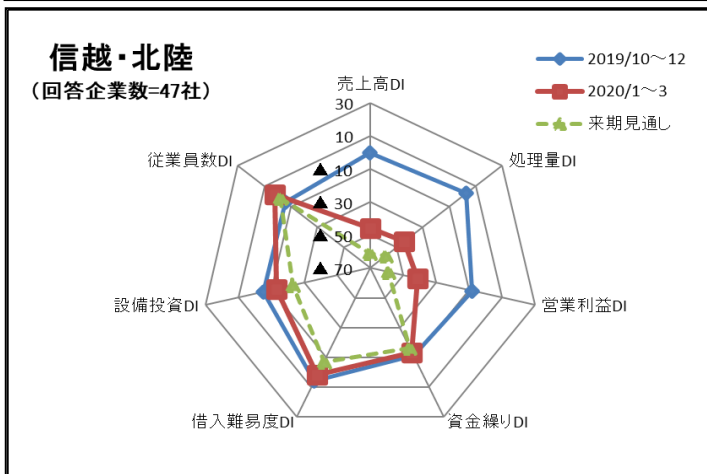
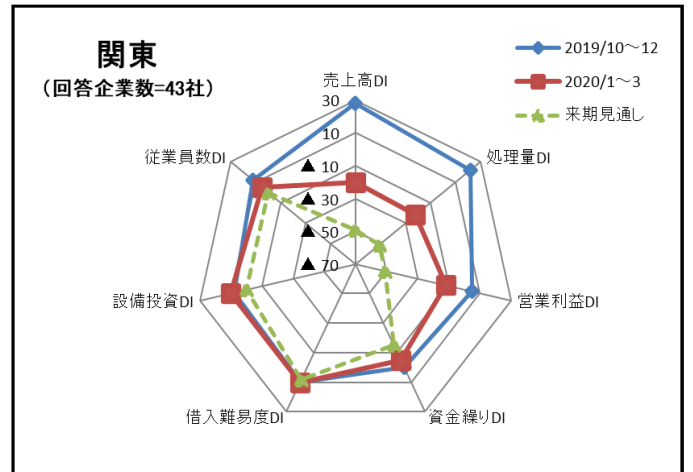
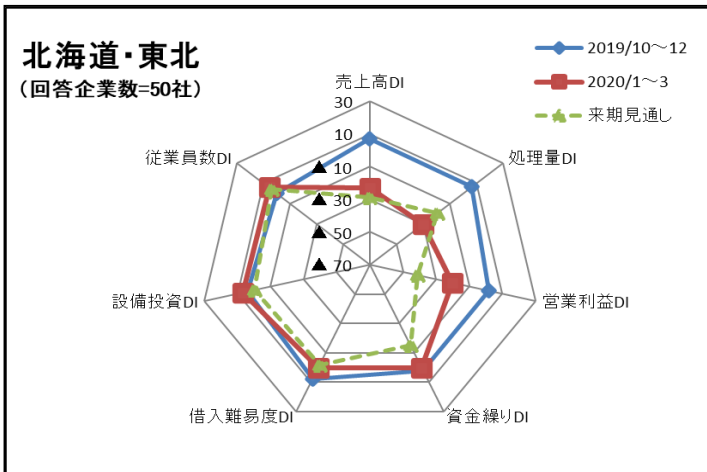


# 従業員数DI

(2019年1月-3月～2020年1月-3月と見通し)



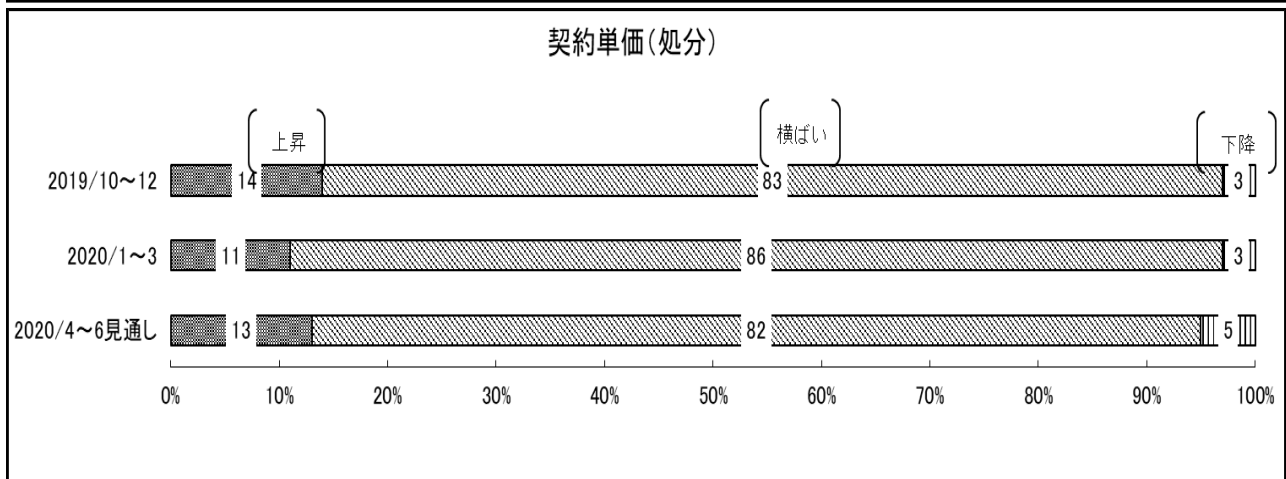
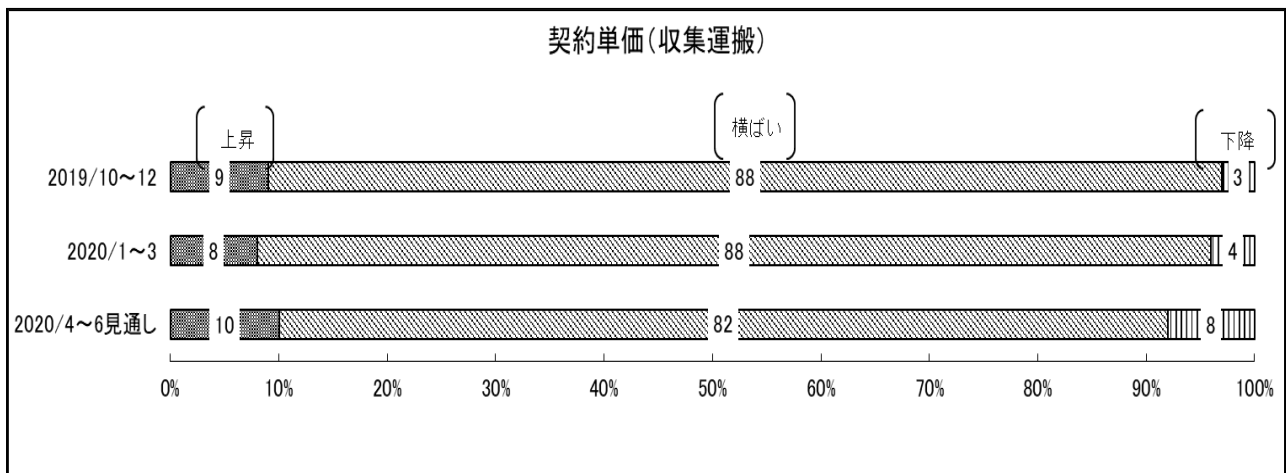
【地域別レーダーチャート】





### (3) 契約単価 DI

- 収集運搬の契約単価 DI は、今回 4 となり、2 ポイント悪化した。  
見通しは 2 となり、2 ポイント悪化する見込みとなっている。  
上昇(全体の 8%)の代表的な値上げ品目として、「廃プラスチック類」、「木くず」、「がれき類」が挙げられた。  
下降(全体の 4%)の代表的な値下げ品目として、「がれき類」が挙げられた。
- 処分の契約単価 DI は、今回 8 となり、3 ポイント悪化した。  
見通しは 8 となり、同水準の見込みとなっている。  
上昇(全体の 11%)の代表的な値上げ品目として、「廃プラスチック類」、「木くず」、「がれき類」が挙げられた。  
下降(全体の 3%)の代表的な値下げ品目として、「金属くず」、「がれき類」が挙げられた。
- 処分の契約単価 DI が収集運搬の契約単価 DI と比較して、4 ポイント高かった。



## 2. 売上高の動向

### (1) 産業廃棄物処理業の売上高

- 前年同期比(3ヶ月平均)では、8.8%増となった。

有効回答数:196 社

単位:千円

前年売上高	2019年1月	2019年2月	2019年3月	平均
	6,731,927	7,111,844	7,922,665	7,255,479
今年売上高	2020年1月	2020年2月	2020年3月	平均
	7,255,874	7,962,614	8,472,002	7,896,830
前年比	7.8%	12.0%	6.9%	8.8%

### (2) 産業廃棄物処理業のうち製造販売による売上高

- 産業廃棄物処理業の売上高について回答のあった277社のうち56社(20%)から回答があった。
- 56社をみると産業廃棄物処理業の売上高のうち製造販売による売上高が占める割合は、平均で37%となっている。

## 3. 処理量の動向

- 前年同期比(3ヶ月平均)では、18.7%減となった。

有効回答数:195 社

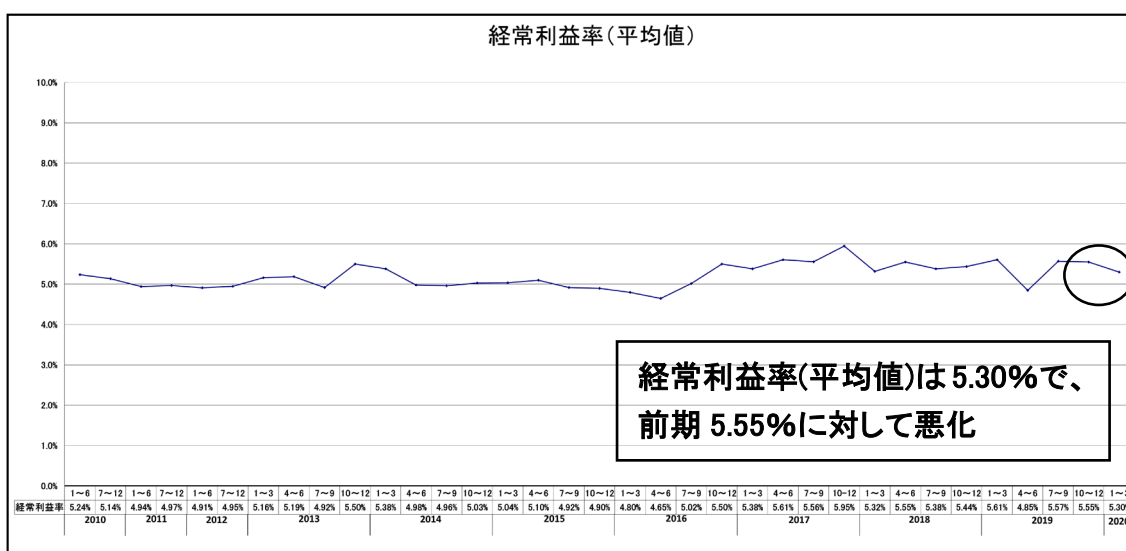
単位:トン

前年処理量	2019年1月	2019年2月	2019年3月	平均
	7,982,135	9,212,452	10,184,032	9,126,206
今年処理量	2020年1月	2020年2月	2020年3月	平均
	7,259,741	7,283,140	7,711,107	7,417,996
前年比	▲9.1%	▲20.9%	▲24.3%	▲18.7%

#### 4. 経常利益率(経常利益の対売上高比率)

- 経常利益率の平均値(注1)は前回調査の「5.55%」から「5.30%」に悪化、中央値(注2)は「4-5%」と悪化し、最頻値(注3)は「10%以上」と同水準であった。
- 経常利益率をみると、「5%未満」との回答割合が32.3%、「5-10%未満」が15.3%、「10%以上」15.6%、「把握なし」36.8%となった(前回調査「5%未満」との回答割合が31.7%、「5-10%未満」が16.0%、「10%以上」18.3%、「把握なし」34.0%)。

2019年10-12月期 経常利益率	平均値(注1)	中央値(注2)	最頻値(注3)
	5.55%	5-6%	10%以上
2020年1-3月期 経常利益率	平均値(注1)	中央値(注2)	最頻値(注3)
	5.30%	4-5%	10%以上



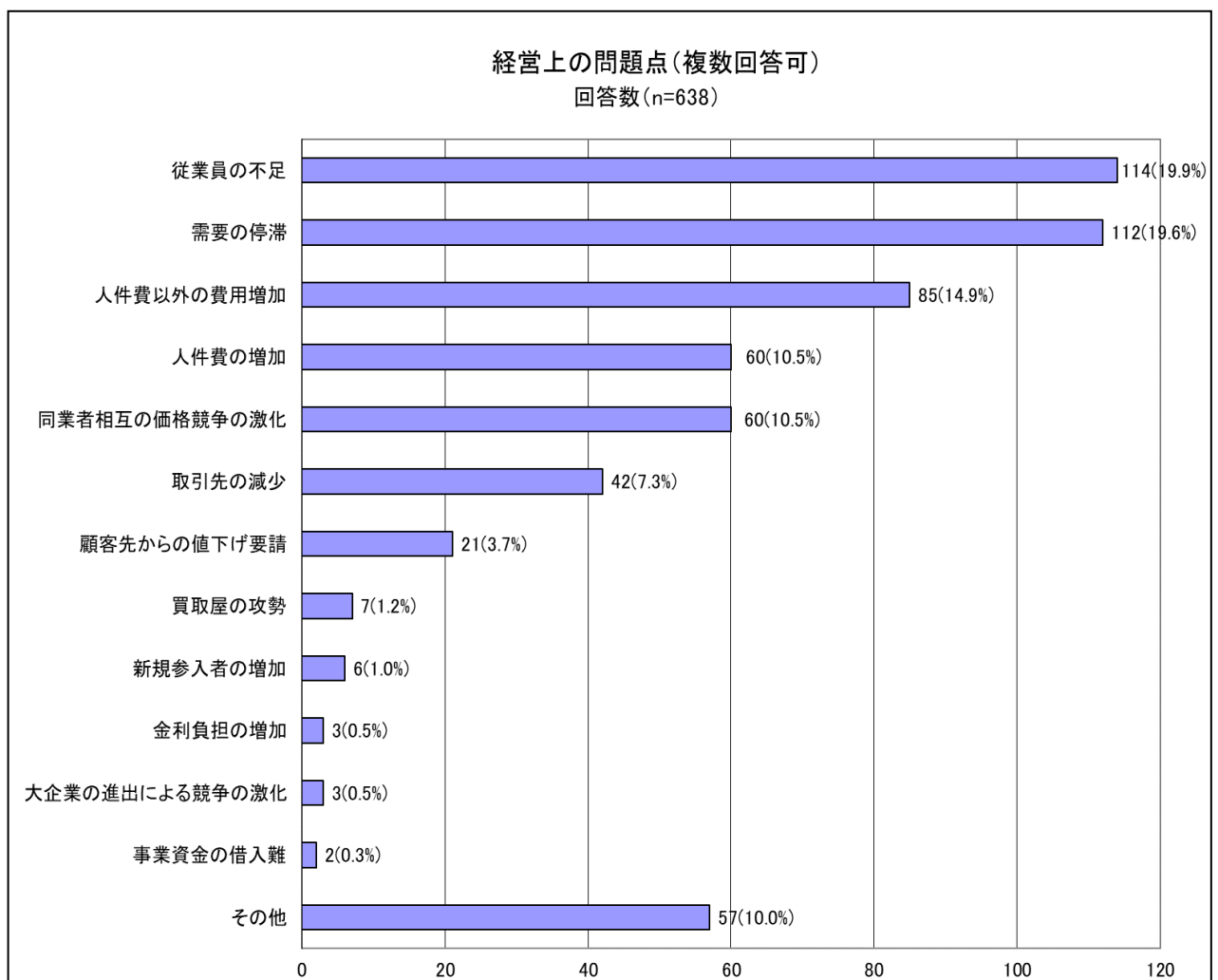
(注1) 平均値は、各選択肢の「代表値(各選択肢の幅の中間値) × 回答人数」を足した値を回答人数(把握なしを除く)の合計で割って算出する。なお、1%未満の代表値は0.5%、10%以上の代表値は10.5%とする。

(注2) 中央値は、回答(把握なしを除く)を昇順あるいは降順などの順番に並べて、中央に位置する値。

(注3) 最頻値は、最も回答人数(把握なしを除く)が多い値。

## 5. 経営上の問題点(複数回答可)

- 経営上の問題点としては、1位「従業員の不足」、2位「需要の停滞」、3位「人件費以外の費用増加」、4位「人件費の増加」、「同業者相互の価格競争の激化」となった。
- 「従業員の不足」19.9%(前回 25.5%)が11期連続で1位となった。
- 「需要の停滞」19.6%(前回 17.1%)が従業員の不足に次いで4期連続で2位となった。
- 新型コロナウイルス感染症による需要の停滞が企業活動に悪影響を及ぼしていることが窺える。



### 【その他の代表的な意見】

- ・新型コロナウイルス感染症による産業廃棄物発生量の減少
- ・新型コロナウイルス感染症による売上高の減少
- ・新型コロナウイルス感染症による先行きの不安
- ・最終処分費用の値上げ
- ・修繕費・修理費の増加

## 〔調査実施要領〕

本調査は、産業廃棄物処理業の景気動向について把握するため、2008年10月-12月期の本調査において回答のあった全国の協会会員企業、全国産業廃棄物連合会理事及び部会運営委員会委員を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、集計したものである。

### (1) 調査対象者

「景況動向調査(2008年10月-12月期)」で回答のあった全国の協会会員企業、全国産業廃棄物連合会理事及び部会運営委員会委員

### (2) 調査期間

2020年4月6日～5月6日

### (3) 調査方法

郵送によるアンケート

### (4) 回答数・回答率

調査依頼企業数 1,031社

回答企業数 338社

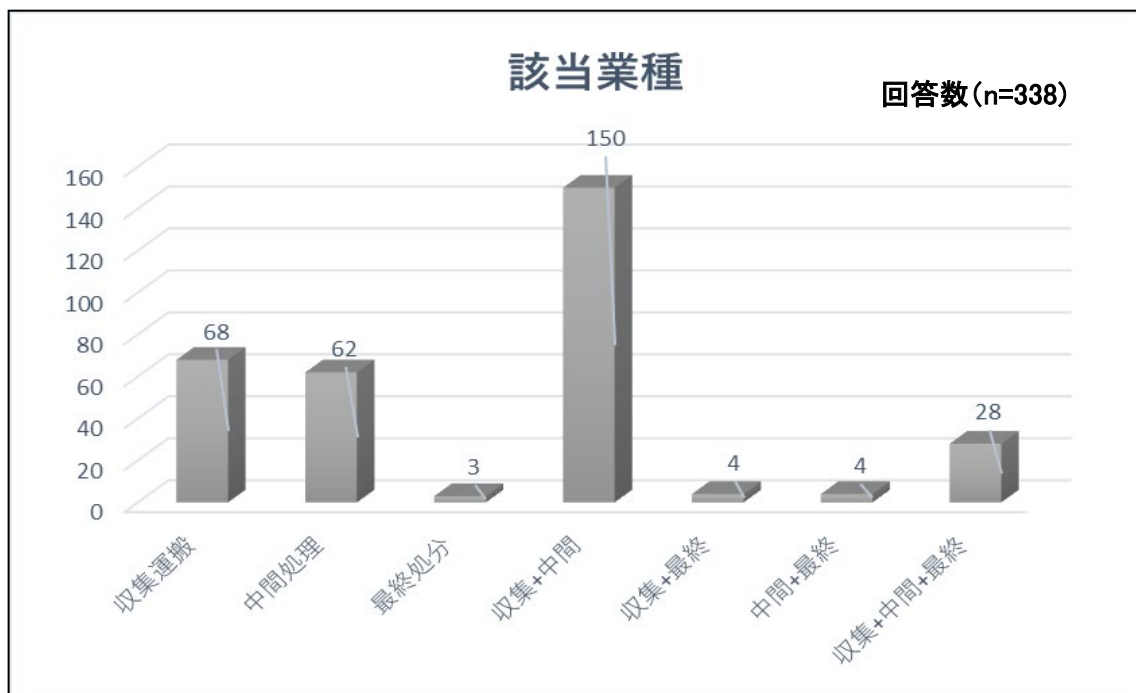
回答率 32.8%

### (5) サンプル構成

#### ① 地域別構成

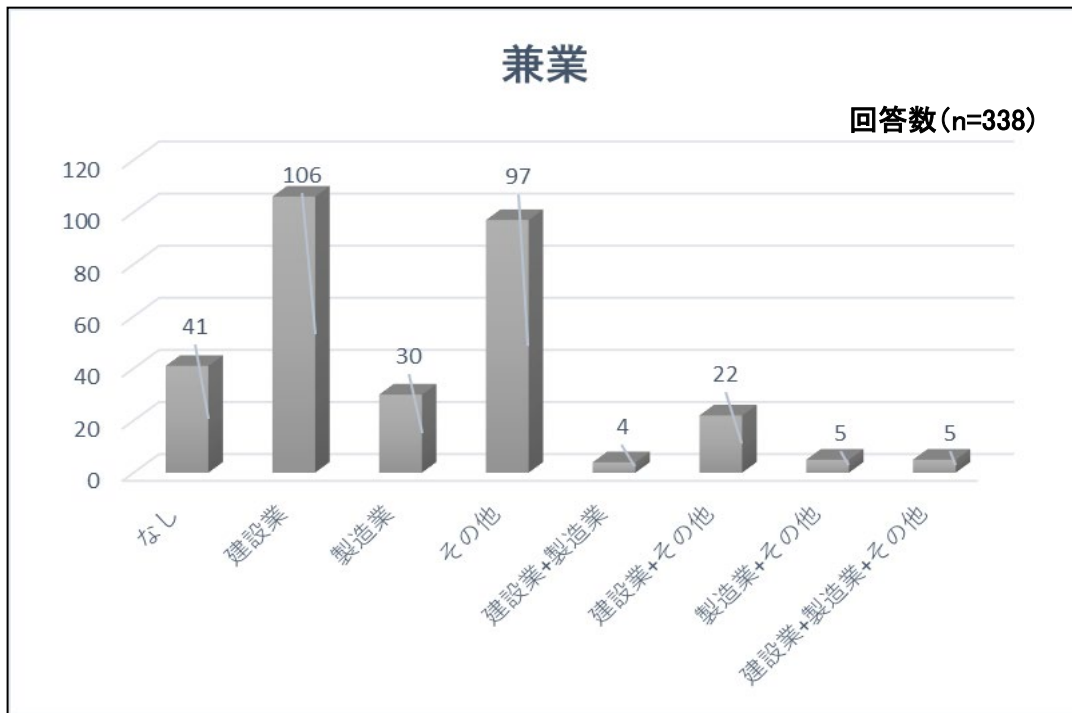
地域	企業数	構成比
北海道・東北	50	14.8%
関東	43	12.7%
信越・北陸	47	13.9%
中部	22	6.5%
近畿	42	12.4%
中国	41	12.1%
四国	27	8.0%
九州・沖縄	66	19.5%
合計	338	100.0%

② 業種別構成



該当業種	企業数	構成比
収集運搬	68	20.1%
中間処理	62	18.3%
最終処分	3	0.9%
収集+中間	150	44.4%
収集+最終	4	1.2%
中間+最終	4	1.2%
収集+中間+最終	28	8.3%
未回答	19	5.6%
合計	338	100.0%

### ③ 兼業別構成



兼業	企業数	構成比
なし	41	13.2%
建設業	106	34.2%
製造業	30	9.7%
その他	97	31.3%
建設業+製造業	4	1.3%
建設業+その他	22	7.1%
製造業+その他	5	1.6%
建設業+製造業+その他	5	1.6%
未回答	28	8.3%
合計	338	100.0%